

教育セミナー ブース体験内容と事業の概要

○学びなら

- ・ 児童が実際に学校で取り組んでいるテスト問題を解くコーナー。
- ・ 学校での取組の様子を映像で周知。
- ・ どのような分析によって復習プリントが選択されるのかを、PCを用いて体験できる。



- ・ AI的な学力データ分析を用いて学習状況を客観的に把握する「個別最適化された学び」につながる奈良市独自の学習システム。
- ・ 小学校算数科において、何が身に付いているのかいないのかという児童のつまずきの指導の手立てをAI的な分析によって科学的に「見える化」し、一人一人が効率的に復習できるプリントを提供するもの。このことで児童自身が自分の個々の課題に気づき、効率的で主体的な学びを目指す。
- ・ 若手教員が増加している中、経験豊富な教員のノウハウ（経験や勘）を若手教員が十分に受け継ぐことが難しくなっている。そこで、このシステムを活用して、エビデンスに基づき児童の見取りや教員の指導法の改善につなげていく。

○未来の教室

- ・ PCを用いてオンラインでの学習（遠隔学習）を体験できるコーナー。
- ・ 参加者が児童役になり、ヘッドホン、マイク、デジタルペンを用いてインターネットを介して模擬授業を体験できる。
- ・ 取組の様子や仕組みを映像で周知。



- ・ 経済産業省の「未来の教室」実証事業として、奈良市教育委員会と委託企業が共同で実施。
- ・ 本取組は、保護者の同意を得て民間教育機関と連携し、学校で学習した復習プリントと学習履歴を共有し、民間教育機関が個別学習指導を行う新たな学習スタイルの実現性を確認するもの。

○オンライン英会話

- ・PCを用いてオンラインでの英会話学習を体験するコーナー。
- ・参加者が生徒役になり、ヘッドホンを装着しインターネットを介して外国人講師との学習を体験できる。
- ・指導主事が、オンライン英会話の仕組みを説明。

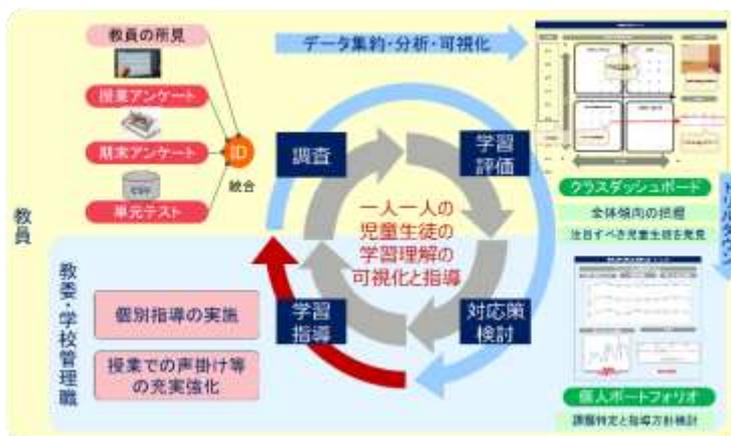


- ・通話アプリケーションを使用し、海外の英会話講師と子どもたちがコミュニケーションを通して英語を学ぶ。
- ・教科として学ぶ英語から一歩前進し、英語によるコミュニケーションを通して自分の思いを伝え、表現できる能力の育成を図るもの。
- ・各中学校1～3年生対象。生徒4名（中3は2名）に対して、海外の英会話講師1名が対応して実施。各自ヘッドホンを装着し、PC画面を通して英語を学ぶ。

○スマートスクール

- ・プレゼンソフトを使ってプロジェクターに投影し、以下のことを指導主事が説明。

→データ活用の考え方
→現在の取り組みの概要
→今後の予定



- ・文部科学省「次世代学校支援モデル構築事業」及び総務省「スマートスクールプラットフォーム実証事業」。校務に関する情報と学習に関する情報の連携により、従来以上の個に応じた学びを実現しながらエビデンスベースの学校運営及び各種施策の改善等を実施する枠組みを構築するもの。
- ・学校現場においては、セキュリティを確保しながらデータを活用できるスマートスクールプラットフォームを構築し、学習記録データ等の可視化、分析を通じて児童生徒の振り返りや教員の指導支援を可能としていく。

○学習支援サービス

- ・電子ドリル「eライブラリアドバンス」の紹介及び体験コーナー。
- ・タブレットにインストールされた「eライブラリアドバンス」を体験。また、家庭での利用を想定し、WEB上からも「eライブラリアドバンス」を体験できる。



- ・民間教育機関が提供する、WEBを利用した教科書準拠のデジタルドリルサービス。小学校（5教科）、中学校（9教科）の学習を一人一人のペースに合わせて「基本・標準・挑戦」の3段階で支援。
- ・インターネット環境がある場所なら、学校での授業のまとめや放課後学習、家庭学習など様々な学びの場で利用可能。
- ・現在は、来年度実施に向け、適応指導教室にてモデル的に実施。

○ジュニア・インターンシップ

- ・ジュニア・インターンシッププログラムの説明パネルや、奈良市ポスターセッションで使用したポスター（生徒制作）を展示。
- ・奈良市ポスターセッションの様子を映像で流す。



- ・ジュニア・インターンシップとは、探求型職場体験学習のこと。
- ・本市では、子どもたちが自分の将来の生き方や進路を考えながら、社会をたくましく生き抜く力を身につけていくことをねらいとし、教育活動全体を通じてキャリア教育を推進している。
- ・その一環として、各中学校において、地元の企業や地域と連携し、ジュニアインターンシップ（探求型職場体験学習）を実施。
- ・その成果を「ポスターセッション」という形で、子どもたちがプレゼンテーションを行う機会をつくり、コミュニケーション力や課題対応能力の向上を目指すもの。

○ICT教育の今

- ・ 奈良市の小学校・中学校のICT環境を再現。
- ・ 再現した環境で、参加者（子ども役）、指導主事（教員役）で20分程度の模擬授業の実施。



5分（環境説明）＋10分（利用方法）
＋20分（授業）＋10分（質疑）の2コマ

- ・ ICTを効果的に活用した授業は、児童生徒の学習への関心・意欲及び学力の向上に効果があるという成果が得られている。
- ・ 本市では、各学校に必要なICT環境を整備し、維持管理とセキュリティの対策を継続しながらICTの活用を推進している。
- ・ ICT環境に対する理解や具体的な活用方法については、各種研修の実施や教員用クラウドコンテンツの充実をとおして教員支援を実施

○プログラミング教育

- ・ プレゼンソフトを使ってプロジェクターに投影し、以下のことを指導主事が説明。
 - 学校教育におけるプログラミング教育導入までの経緯
 - 学習指導要領での位置づけ
 - プログラミング思考と学校での取組
- ・ SOC（プログラミング教育教材）を用いて、参加者が児童役になり、PCを用いてプログラミング学習を体験する（業者協力）。



- ・ 学習指導要領に規定されるプログラミング教育は、「子どもたちに、コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験させながら、プログラミング的思考などを育成するもの。
- ・ プログラミング教育教材『Switched on Computing (SOC)』をモデル的に活用。指導案、指導書、掛図、ワークシート等がセットになっており、授業ですぐに活用できるもの。今年度市内8小学校4年生において試験的に活用。

○「Stop it !」(いじめ相談アプリ)

- ・ 「Stop it !」(いじめ相談アプリ) のサービス概要の説明と P C 画面による実機体験コーナー (業者協力)。



- ・ いじめの相談・報告が匿名で行えるアプリを昨年9月に導入。メッセージャーを使ってチャット形式での相談もできる。市のいじめ相談ダイヤル(24時間対応)と連携し、緊急事案にも対応。
- ・ アンケート調査によると、スマホ所持率小学校高学年で約40%、中学生で約60%。また、スマホがなくても、インターネット接続できるゲーム機やP Cがあれば接続可能なことから小学校5年生から導入。

○ツイタもん

- ・ 登下校通知メールサービス及び位置情報検知システム「ツイタもん」のサービス概要の説明と P C 画面による実機体験コーナー (業者協力)。



- ・ 「N P O 法人ツイタもん」が提供する学校防犯システム。I C タグを持って児童が登下校すると、校門通過時刻と映像が記録される。保護者に通知されるシステムも有料で申込可。
- ・ 本市では子どもたちの安全確保の対策として、I C T を活用した安心安全なまちづくりを進めており、その一環として実施。

○学校給食の今

- ・ これまでの学校給食の取組をパネル展示。
- ・ 過去5年間の給食ベスト5のパネル展示。



※各ブース運営は、関連事業者の協力のもと実施